

日本教育大学協会が理事会を開催

日本教育大学協会（会長＝出口利定・東京学芸大学長）は、理事会を5月19日（木）、東京の学士会館で開催した。

理事会の前半では、文部科学省から高等教育局大学振興課柳澤好治教員養成企画室長を迎えて、教員養成系大学・学部を取り巻く最近の動向に係る再確認事項について説明を受けると共に、今後の教職大学院の在り方についての意見交換を行った。

教員養成系大学・学部を取り巻く最近の動向としては、①「主権者教育」という言葉、概念を大学のカリキュラム、教育内容に反映させていくこと、②「性同一性障害等」への理解、配慮、③教員の政治的中立性、④第3期中期目標・中期計画の着実、確実な履行、⑤附属学校における事件・事故対応、⑥附属学校における教科書採択結果及び理由等の公表に係る説明責任、以上6点について、改めて必要性、重要性についての説明があった。

意見交換では、ほぼ全国に教職大学院が設置される状況の達成を目前に控え、全国化を踏まえたより普遍的な教職大学院の姿を探る必要性から、各大学・地区の状況、実情等、今後の参考となる材料が欲しい旨、柳澤教員養成企画室長から発言があり、活発な意見交換が行われた。

理事会後半では、①会長、副会長および監事の選出について、②平成27年度決算書（案）及び会計監査報告について、③平成28年度事業計画（案）について、④平成28年度予算書（案）について、⑤研究集会開催担当地区について、⑥負担金および地区会費に関する規程の一部改正（案）および研究助成要項の一部改正（案）について審議を行い、承認された。また、平成27年度事業報告、各委員会及び地区会等の報告を行った。

その後、初等中等教育局特別支援教育課田井祐子専門官の来訪を受け、特別支援教育の免許状保有率の現状および免許状保有率の向上の必要性について、今後の特別支援学校教員の専門性向上に向けての動き、特別支援教育に関する教職員等の資質向上事業の活用についての説明があり、盛会のうちに終了した。



出口日本教育大学協会会長



柳澤教員養成企画室長



田井特別支援教育課専門官



理事会の様子